

① 益田市木材利用連絡会議の開催

管内の各市町では、「公共建築物における木材の利用の促進に関する法律」に基づき「木材利用行動計画」を策定し、公共部門における木材利用の推進を図っています。

3月17日(火)、益田市において計画に基づく庁内会議が開催されました。当日は、益田市農林水産課のほか、公共建築物の所管部署である建設部・教育委員会・福祉環境部の職員が出席し、公共建築物木造化・木質化の取り組み目標に対する実績報告や、次年度以降の発注計画に関する情報交換が行われました。

当事務所からは来年度4月に県及び管内市町担当者を集めて開催する「公共建築物における木材利用調整会議」に向けて、地域材準備のために不可欠な中長期計画の情報提供を依頼したほか、地域材利用事例を紹介し、公共建築物へのさらなる地域材利用を呼びかけました。

本会議を通して、公共建築物への地域材利用に向けた機運の醸成や、課題の共有につながるよう、引き続き働きかけていきます。



会議の様子



② ツキノワグマ錯誤捕獲発生 ～ツキノワグマに出会わないために～

4月7日(火)に、今年度益田管内初となるツキノワグマの錯誤捕獲が発生しました。錯誤捕獲とは、イノシシなどを捕獲するために設置したわなにクマが誤ってかかってしまうことです。

春は山菜採りなどで山に出かけるが増える季節です。しかし、この時期はクマが冬眠から目覚め、食べ物を求め活発に動き回るため、クマに出会う確率も高くなります。特に、春先には子連れのクマが多く出没することも予想されます。母グマは子グマを守るために神経質になっており、出会ってしまうと人身事故に繋がる危険性もあります。

クマによる人身事故を防ぐには、「もし出会ったらどうするか」を考える前に、「どうしたら出会わないか」を考えることが重要です。例えば、複数人で行動する、常にラジオやクマ鈴で音を出すなど、クマが人に気づきやすいような状況を作ることが大切です。しかし、山菜採りなどに熱中するあまり周辺への注意力が散漫になり、茂みに潜んでいるクマに自ら近づいてしまい、クマと接触する事態も考えられます。クマ鈴などを過信しすぎずに周囲に十分気を配り、人がクマに気づきやすいように行動することを心がけ、クマと出会わないよう注意しましょう。



錯誤捕獲されたツキノワグマ